

2018年度

事業報告書

社会福祉法人 溪仁会

2018年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

入所部門では、下期に入り介護職員の離職が増加し、入所・短期入所の定数制限をせざるを得ない深刻な人員不足となつた。しかし、年度末には法人内異動、人材紹介等で必要人数を確保でき、新規入所者の受け入れが可能となった。しかしながら年間を通じて、入院者数の増加と、入員期間の長期化等により在園率の安定化を図ることが困難であった。引き続き次年度への繰り越し課題となつた。

在宅部門では、通所、訪問介護の2事業で職員の欠員があつたものの比較的安定した事業運営を行うことができた。特に通所介護では定数管理を適切に行いながら目標値に対し99%の達成率となつた。居宅介護支援では、前年度からの課題であった同区内にある2か所の事業所の統合に向けて調整を図り、2019年5月から統合とするため、下期後半よりご利用者の事業所変更調整を行い、目標値に対し、75%の達成率となつた。統合後の効率的な運営が望まれる。

グループホームでは、年間を通じて安定しており、ほぼ目標値通りの運営となつた。介護職員の定数では3名の欠員のまま経過をしており、超過勤務、公休未消化の勤務体制で対応している状況である。新年度の新たな人事体制に向けて補充を図ることが急務である。

入所・在宅部門双方で共通した年度の課題は、人材育成と業務改善の2点が挙げられる。特に新人の介護職員の育成、指導には施設としてのツールが不十分で、統一した指導が困難となっている。その結果職員の質の均一化、定着率に影響を及ぼしている。また、2つ目として今後の福祉・介護に従事する人材不足が益々深刻になる中では業務改善によりより効率化を図りながら生産性の向上が重要であり次年度の大きな課題として取り組みたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

2018年度は、前年度に引き続き経営改善のために入所部門での、園長、ケア部長、介護課長、経営管理部課長で構成する業務改善検討会議を上期月1回定例で開催してきた。下期に入り、介護職員が不足も影響して、不定期開催となり具体的な改善へつなげることができなかつた。2019年度より組織の再編と担当職員の変更により、入所定数、コスト管理のための定例ミーティングを実施する予定。また、ブロックとしてビジョン福祉4.0への取り組みとし、課題の整理を行い安定経営のためのアクションプラン策定の「夢プロミーティング」を開催予定。

3. 職員状況（3月末現在）

○ 2019年3月31日職員状況

<西円山敬樹園（特養・短期・通所・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘>

- ・医 師： 2名（非常勤） 看 護 職 員： 10名（内非常勤3名）
- ・介 護 職 員： 82名（内非常勤16名） 生 活 相 談 員： 6名（内施設CM兼務3名）
- ・介護支援専門員： 5名（内非常勤 1名） 介 護 予 防： 2名
- ・作 業 療 法 士： 1名 言 語 聽 覚 士： 1名
- ・理 学 療 法 士： 1名 管 理 栄 养 士： 1名
- ・常 勤 ヘルパー： 5名 非常勤ヘルパー： 30名
- ・事 務 職 員 他： 12名
- ・合 計 職 員 数： 158名（常勤職員106名、非常勤職員 52名）

○ 2018年度職員異動状況（常勤職員）

- ・採用： 18名（看護職員： 1名、介護職員： 17名）
- ・退職： 22名（看護職員： 2名、介護職員： 16名、リハビリ職員 2名、事務職員他： 2名）

○ 外部研修参加（施設職員参加状況）

- ・敬 樹 園： 38回 通 所 介 護： 3回 訪 問 介 護： 5回
- ・居 宅 介 護 支 援： 10回 西 円 山 の 丘： 0回

○ 内部研修（ケア部）

- ・入 所： 事故防止 2回、感染予防 2回、抑制廃止/高齢者虐待防止 2回
褥瘡予防 1回、緊急災害 1回
- ・そ の 他： 新人職員研修 1回、食事ケアと口腔ケア 1回、理念の浸透・運営方針 1回
個人衛生 1回、施設サービス計画 1回、セルフケア 1回
看取り研修 2回、ハラスマント研修 1回、メンタルヘルス 1回
- ・敬 樹 園： 6回 通 所 介 護： 9回 訪 問 介 護（敬）： 11回
- ・居 宅 介 護 支 援： 5回 西 円 山 の 丘： 11回

2018年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>43,800人</u>	<u>41,484人</u>
一日平均入所者数	<u>120.0人</u>	<u>113.6人</u>
入所待機者	<u>68人</u> (3月末現在)	
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 3.91</u>	
協力医療機関 :	<u>1. 札幌西円山病院</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,920人</u>	<u>2,657人</u>
一日平均入所者数	<u>8人</u>	<u>7.27人</u>
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 2.69</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>6,144人</u>	<u>6,140人</u>
一日平均利用者数	<u>24.0人</u>	<u>24.2人</u>
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 2.1</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

目 標

実 績

延派遣回数 (介護保険) 12,025回 10,203回
(介護保険外) 7,047回

一日平均利用回数 (介護保険) 32.9回 28.0回

要介護度状況 : 平均要介護度 1.6 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

目 標

実 績

延作成件数 1,980 件 1,495 件
(うち介護予防) 294 件

要介護度状況 : 平均要介護度 2.09 (要支援1・2を除く)

【介護予防センター】

(円山)

延相談件数 41 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：16 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
介護予防：22 件 その他：7 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数（延べ）
介護予防教室	<u>145</u> 回	<u>1,725</u> 人

(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)

転倒予防 134 回 栄養改善 2 回 口腔機能向上 56 回
閉じこもり予防 7 回 認知症予防 127 回 疾病予防 4 回
その他の介護予防 13 回 (体力測定・血圧測定)

研修会・講演会	<u>6</u> 回	<u>181</u> 人
その他	<u>40</u> 回	<u>529</u> 人

(曙・幌西)

延相談件数 60 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：9 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
介護予防：39 件 その他：16 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数（延べ）
介護予防教室	<u>61</u> 回	<u>1,384</u> 人

(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)

転倒予防 43 回 栄養改善 3 回 口腔機能向上 12 回
閉じこもり予防 6 回 認知症予防 41 回 疾病予防 3 回
その他の介護予防 7 回 (体力測定)

研修会・講演会	<u>18</u> 回	<u>784</u> 人
その他	<u>20</u> 回	<u>341</u> 人

2018年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

目 標

実 績

延入所者数 9,740人 9,658人

一日平均入所者数 26.7人 26.4人

入所待機者 14人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 2.49

協力医療機関 : 1. 札幌西円山病院

2018年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

開設後7年が経過した2018年度は、9月に発生した北海道胆振東部地震によるブラックアウトの影響で、利用者さまをはじめとする関係ステークホルダーへの被害状況は確認されなかったものの、当施設における災害時対応における意識の欠如を痛感いたしました。これを機に地域における当施設の役割を改めて認識していくきっかけとなり、近隣のグループホームや保育園より、災害時における避難場所要請等があったところであり、今後さらに地域との連携を深めていかなければならないと考えております。

2018年度は、従前から掲げている「利用者」「職員」「地域」「経営」の4つの満足度向上を基本方針とした「中長期ビジョン」を策定し、今後施設として目指すべき方向性を示しました。前年度に引き続き施設内ガバナンス体制の再構築を念頭に、「仕事をやりやすくする」「施設としての身だしなみを整える」を柱として、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の取り組みを継続して推進し、サービスの質の向上につなげるべく、自己研鑽の促進と内部研修の充実に努めてまいりました。

地域への公益的な取り組みに関しましては、札幌市より民間事業者の自主事業として雇用による就労を継続して行うことが困難な方への就労に向けた必要な訓練を行うことを目的とした「生活困窮者就労訓練事業」の認定を受け、就労の機会を提供しつつ、一般就労が可能となるまでの支援を行ってまいりました、また、地域を含めた広報活動のツールとして、広報誌に加えツイッターやフェイスブック等のSNSを活用し、当施設の取り組みを周知してきた結果、ホームページのアクセス件数の増加が見られました。

人財確保対策の一環として、昨年度受託した「地域人材を活用した労働環境改善促進事業」を継続して推進し、付帯的な業務（間接業務）を担っていただくことで、介護職員の業務負担軽減に貢献してきたものの、根本的な人財不足の解消までには至らず、結果としてそれらを補うべく勤務時間外数が増加傾向となり、ワークライフバランスの推進に課題を残す結果となりました。

経営面については、開設来最多となる延入院者数を発症し、大変厳しい収支結果となりました。今後特に近隣協力医療機関との連携を深め、今一度施設ケア方針の見直しに着手していくとともに、当施設内各事業の目標を全職員が意識して行動してまいります。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○毎月1回 施設運営会議（参加者：管理者・各部署責任者）において毎月の経営状況における課題等について協議・検討を実施

○内 容： 毎月における各事業の目標収益・支出（人件費・事業費・事務費）・一日平均利用者数の達成状況確認と検証、

加算算定状況の確認、平均要介護度の推移、人件費率及び利益率、新規加算算定取得に向けた目標数値の達成度確認など

<成 果>

○当施設における経営上の課題について共通認識が図られた。

○通所における要介護利用者比率の底上げ意識の醸成と利用キャンセルに伴う振替利用の徹底が図られた。

<今後の展開>

経営課題における認識は統一されてきているが、個々の課題、特に入所部門においては入居者の体調不良から、入退院者が増加傾向となっている昨今、今後嘱託医との協議の下、当施設における施設ケアの在り方を含め、病院受診や入院時の判断等について、改めて見直しを行って参りたい。また経営面に限らず、各部門間における課題解決に向けて確実に協議を行っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況【合計職員数97名】

特養・短期：管理者1名、医師2名（非常勤）、看護職員7名、介護職員59名（内非常勤5名、介護アシスタント13名）

生活相談員2名、介護支援専門員2名、理学療法士1名、栄養士（管理栄養士含む）2名、事務職員3名

※産前産後・育児休業取得者6名含む（介護職員）

通所：管理者1名、生活相談員2名（介護職員兼務）、介護職員8名（内非常勤3名）、看護師3名（内非常勤1名）他

○2018年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：10名【看護職員1名（内転入）、介護職員7名（内通所3名）、作業療法士2名】

退職：14名【看護職員1名、介護職員9名（内通所2名）、理学療法士2名、施設外異動者2名（介護支援専門員・介護職員）】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（法人本部・渓仁会グループ内研修含む）

全国老施協（研究会議他）、介護報酬改定（栄養関連）、医療安全講習会（保健所）、日本褥瘡学会北海道地方会学術集会、

道・市社協、民間共済会主催研修 他 その他法人本部・渓仁会グループ主催研修

○内部研修実施状況

褥瘡予防基礎研修（講師：札幌西円山病院認定褥瘡看護師 土屋主任）、感染予防（ノロウイルス・インフルエンザ）、虐待防止等

○会議等～北海道及び札幌市老施協幹事会、生活相談員研究会、赤い羽根共同募金会、運営推進会議（グループホーム） 等

○その他～日本褥瘡学会北海道地方会学術集会、渓仁会グループ研究発表会（3演題）において発表

その他法人内研修における講師及び近隣グループホームの運営推進会議へ参加

2018年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

目 標

実 績

延入所者数 29,200人 27,565人

一日平均入所者数 80.0人 75.5人

入所待機者 98人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 3.8

協力医療機関 : 1. ごとう内科クリニック

2. 定山渓病院

3. 札幌朗愛会病院

4. 大谷地病院 ※精神科医師療養指導あり

【短期入所生活介護：定員8名】

目 標

実 績

延入所者数 1,460人 1,446人

一日平均入所者数 4.0人 4.0人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.2 (要支援1・2を除く)

【通所介護：一般型45名】

目 標

実 績

延利用者数 9, 347 人 8, 785 人

一日平均利用者数 36.5 人 34.3 人

要介護度状況 : 平均要介護度 1.7 (要支援1・2を除く)

2018年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括

収入面については、人員配置の問題で個別機能訓練加算が予算通り算定することができなかつたが、入居・ショートともに目標の稼働率を上回ることができた。

支出面については、人件費が予算より少なく推移した。

職員確保については、配置基準は満たしているものの介護職員数が不足していた。現在、コミュニティホーム岩内と連携し職員異動及び採用を続け、ある程度補充することができた。

機能訓練指導員については、個別機能訓練体制加算を算定するためにも専従の機能訓練指導員を補充していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

○2018年度の下記計画を確認した。

1. コミュニティホーム岩内の待機者が、当施設のショートステイを利用して頂く連携
2. 全職員参加型の教育（研修）の定例実施
3. 岩内コミュニティの丘の各施設・事業所との連携（コミ丘運営会議）

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況

施設長： 1名

医師： 1名（嘱託）

栄養士： 1名

介護職員： 27名

看護職員： 4名

事務職員： 1名

相談職員： 3名

ケアマネ： 1名

介護補助： 5名

合計： 44名

○定期業務委託：給食・清掃洗濯・浄化槽管理

4. 研修参加・実施状況

○施設内研修（全職員参加）

- | | |
|-----|--------------------|
| 4月 | ・記録記載の研修 |
| 5月 | ・不適切ケア研修 |
| 6月 | ・腰痛予防研修 |
| 7月 | ・事故発生防止研修 |
| 8月 | ・防災研修 |
| 9月 | ・看取り研修 |
| 10月 | ・接遇研修（本部坂本部長に講師依頼） |
| 11月 | ・リスクマネージメント・感染予防 |
| 12月 | ・感染予防研修 |
| 1月 | ・認知症研修 |
| 2月 | ・虐待研修 |
| 3月 | ・感染予防研修 |

2018年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】

	目 標	実 績
延入所人数	<u>18, 250 人</u>	<u>18, 292 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>50.1 人</u>
入所待機者	<u>3 人 (3月末現在)</u>	
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 3.9</u>	
協力医療機関 :	<u>1. 指定管理者 医療法人渓仁会 泊村茅沼診療所</u>	
	<u>2. 岩内協会病院</u>	
	<u>3. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2, 920 人</u>	<u>3, 126 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>8.6 人</u>
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 2.15</u>	(要支援1・2を除く)

2018年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

今期は介護職員の離職に伴う補充ができず、前年度同様に法人内の施設より研修派遣という形で応援を仰ぐ結果となり、新規入居の受入れを制限せざるを得ない状況もあり、収支については目標と大きな差異が出る結果となった。今後もさらに厳しい状況は継続するが、業務委託やスポット就労等の活用、本部及び法人内各施設との連携、さらには外国人技能実習生の受入れ等により打開策を見つけていきたい（派遣および紹介業者の活用も視野に）。又、在宅部門においては、居宅介護支援事業所の運営が軌道に乗ってきており、通所介護等の在宅サービス利用者も若干ではあるが増加傾向であり、又、短期入所の受入れも前年度以上の受入れ実績を残したことから、次年度においても各事業所間の連携を強化し、在宅サービスの利用者増を目標とする。さらに、今年度は訪問介護及び通所介護においては総合事業への完全移行を受け、より行政等との連携強化が重要となったが円滑な移行ができた。人財不足の中にあっても前向きに課題に取り組み、サービスの質を向上させるチャレンジを継続しつつ、地域ニーズも考慮した将来的な展望を視野に、柔軟な発想で今後の方向性についても検討が必要となる。今後も中長期的な視野で、施設運営の基盤固めと、ＩＣＴ等を活用した業務の効率化、地域の高齢者や主婦層、外国人も含めた人財確保策の推進、更には介護報酬改定に伴う加算取得等の課題にも積極的に取り組んでいきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・毎月第3水曜日（16：30～）開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置と業務と改善

- ・経過記録等のPC入力（LM-WINCARAへの移行、タブレット活用の検討等）
- ・効率的な勤務シフト及び部署間連携の検討
- ・スポット就労及び業務委託の検討
- ・入居者のユニット異動に伴う検討等（平成30年9月以降6ユニットで稼動）

2) 各種加算の算定（両施設）

- ・「日常生活継続支援加算」算定。・「認知症専門ケア加算Ⅰ」算定。
- ・看取り介護加算（喜7名、留4名）算定。
- ・今後も、「認知症専門ケア加算Ⅰ」の継続取得に向け、「認知症実践者研修」及び「認知症実践リーダー研修」への積極的な研修参加を支援していく。
- ・2018年度（新規）加算取得として、「配置医師緊急時対応加算」、「看取り介護加算Ⅱ」、「褥瘡マネジメント加算」、「生活機能向上連携加算」、「特定事業所加算Ⅱ（訪問介護）」の他、通所介護のサービス提供時間を5時間～7時間から6時間～7時間へ変更。

3) 費用等の見直し

- ・給食委託業者の人材確保難により2019年5月から契約変更による単価増のため施設負担が増大。
- ・2019年度は、配管等の経年劣化に伴う、「るすつデイサービスセンター」の光熱水費削減への取り組みが課題。

4) その他

- ・人財確保策として、外国人技能実習生の受け入れや職員確保のための更なる住宅等の体制の整備を実施予定。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況 総職員数 97名（喜茂別64名、留寿都32名）

非常勤医師2名、看護職員8名（内非常勤2名）、介護職員70名（内非常勤12名、派遣2名）、
生活相談員兼介護支援専門員4名、管理者兼生活相談員1名、管理栄養士2名、訪問介護員3名、
事務職員他7名（内非常勤1名）

○2018年度職員異動状況

採用35名【介護職員26名（内新卒1名、派遣4名、非常勤7名）、看護職員7名 非常勤事務職員1名】

退職30名【介護職員20名（内非常勤3名、派遣5名）看護職員5名、事務員1名、生活相談員1名 管理栄養士1名】

異動 転入3名【菊水、あおば、本部】 転出2名【菊水、岩内】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：19延べ250名参加

ハラスマント、スクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇、心肺蘇生・AED等

○外部研修参加回数：喜45回延べ93名 留30回延べ54名

認知症介護実践者研修、介護職員実務者研修、全道老人福祉施設研究大会、技能実習責任者講習、技能実習指導員講習、後志老施協研修、渓仁会グループ及び本部主催研修等

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会作っていく。

2018年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>24, 791</u> 人	<u>21, 795</u> 人
一日平均入所者数	<u>68.0</u> 人	<u>59.7</u> 人
入所待機者	<u>4</u> 人 (3月末現在)	
要介護度状況 :	平均要介護度 <u>3.70</u>	
協力医療機関 :	<u>1. 喜茂別町立クリニック</u>	
	<u>2. 定山渓病院</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 喜茂別歯科</u>	
	<u>5. ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>490</u> 回	<u>361</u> 回
(介護予防)		<u>回</u>
(総合事業)		<u>450</u> 回
(障がい)		<u>164</u> 回
(制度外)		<u>4</u> 回
一日平均利用回数 (介護保険・総合事業)	<u>2.0</u> 回	<u>3.3</u> 回
要介護度状況 :	平均要介護度 <u>1.30</u>	(要支援1・2を除く)

2018年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	10, 406 人	10, 055 人
一日平均入所者数	28.5 人	27.57 人
入所待機者	1 人 (3月末現在)	
要介護度状況 :	平均要介護度 3.25	
協力医療機関 :	1. 留寿都診療所	
	2. 定山渓病院	
	3. 洞爺温泉病院	
	4. 留寿都歯科診療所	

【通所介護：地域密着型10名】

	目 標	実 績
延入所者数	1, 691 人	1, 263 人
一日平均利用者数	6.90 人	5.15 人
要介護度状況 :	平均要介護度 2.2 (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 (うち介護予防)	420 件	553 件 24 件
要介護度状況 :	平均要介護度 2.0 (要支援1・2を除く)	

2018年度 事業報告

施設名：手稻つむぎの杜

1. 総括

○2018年度の総括

開設5年目を迎えた2018年度は、社会福祉法人渙仁会の経営基本方針を踏まえ、『事業戦略とサービスの質向上』『ガバナンス体制強化と経営の質向上』『人財の確保と職員満足度向上』を3つの柱として施設運営方針を掲げ、全職員が共有し、事業の着実な推進に取り組んだ。結果、介護報酬改定並びに北海道胆振東部地震による一部事業休止を余儀なくされ在宅事業を中心に苦戦を強いられるも、各事業が連携・協力した結果、施設全体としての経営においては年度を通して順調に推移した。また、渙仁会グループに期待される使命並びに地域包括ケアシステムを見据えた新たな事業展開の検討を重ね、2019年度の事業開始にむけ基本的なコンセプトを整理することができた。人財の確保という点においては、介護職員を含めた専門職の確保が一層厳しさを増す現状を痛感する一年となったものの、前年度に引き続き北海道介護ロボット普及推進センターの指定をうけ、専門学校等に出向いての介護ロボットの使用体験や地域の中学生等の職場体験受入・交流等により介護の魅力を発信することができた。これらのことから、総じて2018年度の目標は達成されたものと考えている。

今後においては、効果的な職員の離職防止対策や働き手が減少する中での業務の見直し等「働き方改革」を推進するとともに、手稻つむぎの杜ブロックの中長期的な運営・経営を意識したなかで、地域に根ざした公益的取組み・サービス展開を具現化していくこととする。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議（原則毎月第4金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○利用者の確保

入所：年間新規22名、稼働率98.5%、入居者の重度化により年間を通じ退居者が多かったものの（看取り15名、入院退居6名、在宅復帰1名）、スムーズな入退居調整により安定的なベッドコントロールができた。年間空床数434日。

短期：年間新規37名、稼働率79.7%、手稻区内居宅介護支援事業所を中心に安定的に利用者を紹介頂き、目標Ave並びに延利

用者数ともに予算達成。通所並びに認知通所利用者のレスパイト利用も多く、事業所間の連携も図れた。

通所：年間新規45名、稼働率83.0%、新規利用者の積極的な受入により高い稼働率維持するも北海道胆振東部地震によるブラックアウトによる4日間の営業休止・受入制限、登録利用者の長期入院等により予算延利用者数未達。新規受入による要介護比率上昇・加算取得により単価においては上昇。

認知：年間新規13名、稼働率74.8%、利用者の重度化に伴う施設入居等やブラックアウトによる営業制限あり、目標Ave並びに延利用者・収益ともに予算に届かず。年度後半よりAve・単価回復傾向。

居宅：年間新規45名、延利用者数・収益ともに予算に届かず。施設内各事業所とのスムーズな連携により、各事業所の利用者増に大きく貢献。事業損益においては黒字化維持。

予防：すこやか俱楽部等予防事業とあわせ7月よりモデル事業開始。地域との連携、施設ギャラリースペースへの展示等、施設運営にも大きく貢献。

障がい：年度途中で管理者の退職に伴う欠員発生も、委託・計画相談ともに安定的に推移。事業損益においても黒字化維持。

○各種加算の算定

入所においては「日常生活継続支援加算（II）」、短期・通所・認知通所においては「サービス提供体制強化加算（I）イ」を継続算定。新たに生活機能向上連携加算（入所・通所・認知通所）算定、その他、入所においては、療養食加算、経口維持加算、看取り加算等、通所においては、個別機能訓練加算（II）等の算定により、単価維持・上昇に努めた。

○水道光熱費及び費用の見直し

水道光熱費は単価の上昇等あるも前年度比▲1,909千円、使用量においても主要4種全てにおいて削減（前年度比ガス▲8.6%、電気▲6.4%、融雪電力▲3.8%、水道▲7.7%）が図れた。また、入居者衣類洗濯の外部委託等業務整理を実施。

○2019年度に向けて

取得可能加算の取得と併せ、業務整理・働き方改革も進め、最小の費用で最大の効果を生むことができるよう一層の経営改善に努める。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日現在 職員状況 <入所・短期・通所・認知通所・居宅・予防・障がい> 合計130名（内非常勤33名）

入所・短期：管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員6名（内非常勤1名）、介護職員57名（内非常勤10名、派遣7名）、

介護支援専門員1名、理学療法士1名、管理栄養士1名、生活相談員2名、事務職員3名 ·計73名

通所・認知：管理者2名、看護職員5名（内非常勤3名）、介護職員33名（内非常勤15名、派遣1名）、作業療法士1名、

運転職員3名（非常勤） ·計44名

居宅・予防：管理者2名、介護支援専門員4名、相談職員1名 ·計7名

障がい：管理者1名（入所管理者兼務）、相談支援専門員5名、相談職員1名 ·計6名

○2018年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

採用：25名【看護職員3名（入所2名、通所1名）、介護職員19名（入所10名、通所8名）、相談職員2名（障がい）、事務職員1名（入所）】

退職：25名【看護職員1名（入所）、介護職員19名（入所11名、通所8名）、相談職員3名（居宅1名、障がい2名）、事務職員2名（入所）】

異動：2名【管理者1名（通所）円山HCCへ、相談職員1名（障がい）円山HCCより】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（渙仁会グループ・キャリア支援課主催研修含む）※参加回数119回、延311名参加

認知症介護実践者・実践リーダー研修、老人福祉施設研究大会、グループ研究発表会、主任介護支援専門員研修、中堅管理職講座 他

○内部研修実施状況 ※開催回数22回、延207名参加

感染対策研修、虐待防止研修、事故防止研修、褥瘡予防研修、看取りケア研修、事例検討会 他

2018年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28, 835 人</u>	<u>28, 766 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>78.8 人</u>
入所待機者	<u>159 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 4.31</u>	
協力医療機関 :	<u>1. 手稲渓仁会病院</u>	
	<u>2. 手稲家庭医療クリニック</u>	
	<u>3. 安永歯科</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2, 738 人</u>	<u>2, 910 人</u>
一日平均入所者数	<u>7.5 人</u>	<u>8.0 人</u>
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 2.34</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型 65名】

	目 標	実 績
延利用者数	17,248人	16,667人
一日平均利用者数	56.0人	53.9人
要介護度状況 :	平均要介護度 1.69 (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型 12名】

	目 標	実 績
延利用者数	2,928人	2,763人
一日平均利用者数	9.5人	9.0人
要介護度状況 :	平均要介護度 2.33 (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 (うち介護予防)	1,755件	1,628件 0件
要介護度状況 :	平均要介護度 1.86	
訪問調査件数		16件

【介護予防センター】

(まえだ)

延相談件数 71 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：29 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：2 件

介護予防：29 件 その他：25 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>54</u> 回	<u>1,149</u> 人
介護予防教室	<u>47</u> 回	<u>964</u> 人
転倒予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
認知症予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
研修会・講演会	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
その他	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人

【障がい者相談支援事業】

◇委託相談支援事業

新規登録者：92名 登録抹消者：120名 年度末登録者数：292名

■相談員1人につき58.4名 担当

(地区別) 中央区：4名 北区：5名 清田区：1名 豊平区：1名
西区：11名 手稲区：269名 市外：1名

(障がい種別) 身体：51名 重心：5名 知的：110名 精神：63名
発達：36名 高次脳：2名 難病：4名 その他：21名

(児・者別) 障がい児：66名 障がい者：226名

支援方法 訪問：1,056件 来所：224件 同行：289件
電話：1,338件 ケア会議：200件
関係機関：1,831件 メール：152件 その他：51件
合計：5,141件

支援分類	福祉サービスの利用に関する支援	3,540件
	障がいや病状の理解に関する支援	83件
	健康・医療に関する支援	427件
	不安の解消・情緒安定に関する支援	129件
	保育・教育に関する支援	20件
	家族関係・人間関係に関する支援	177件
	家計、経済に関する支援	259件
	生活技術に関する支援	223件
	就労に関する支援	221件
	社会参加・余暇活動に関する支援	31件
	権利擁護に関する支援	31件
	<u>合計：5,141件</u>	

◇指定相談支援事業（サービス等利用計画）

契約者総人数（新規） 障がい者：87件（13件） 障がい児：28件（10件）

2018年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養に関しては、昨年同様平均介護度（4.35）が高く、医療ニーズの高い入居者が多く入退院が多かったが、病状に対する早期対応により入院期間は短い。退居者数についても年間通して4名と少なく、昨年度に比べアベレージの向上に繋がった。（一日平均入居者数：2017年度：28.2名 2018年度：28.38名）

また、小規模多機能型居宅介護は、利用者の出入りが頻回であったが、定期的に他事業所や病院等に営業活動実施し実績として平均登録者数28.4名を維持することができた。共用デイは、登録者2名までしか至らなかった。結果的には特養、小規模多機能型居宅介護の平均介護度・稼働率が上がり収益増につながった。

2019年4月サテライト型小規模多機能型居宅介護開設に向けて準備を行い、予定通り開設に結びついた。

事故（19件）・苦情（3件）に関して、事故については圧倒的に誤薬事故件数が多かったが、重大な事故に繋がったケースは無い。服薬マニュアルの見直し、修正を行い改善に努めていく。ご利用者やご家族からの苦情は3件あった。サービス内容の説明不足や出入り業者への地域住民からの苦情であった。常に全職員がご利用者やご家族、地域に詳細説明を実践し信頼をいただく様努めていきたい。

施設内外研修に関しても計画通りに実施・参加できた事は評価できる。最後になるが、職員（特に介護職員）の退職は少なく業務に影響することはなかった。しかし、人員確保が厳しい状況であることは、今後の大きな課題であると考える。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>：毎月第3月曜日（16：45～）開催

- 1) 各事業所の稼働率向上について。
- 2) 職員募集・新人介護職員教育等について（離職防止も含め）
- 3) 兼任可能施設職員の在り方について
- 4) その他

<成果>

- 1) 特養についてはご利用者に対し病状の管理、ケアの質の向上を検討し、退居者数の減少に結びついた。小規模に関しては白石区第3包括支援センターから定期的な紹介等もあり稼働率維持に繋がった。
- 2) 定期的にマニュアルを見直して、新人介護職員の勉強会等で使用。個人面談の回数を増やし業務内での不安や悩み等確認できた。
- 3) 地域密着サービスの特徴をしっかり活かし、各職種（介護福祉士・介護支援専門員）の常勤換算等条件を満たしながら、特養・小規模多機能型居宅介護、同一敷地内での兼務可能な職員を多くして、より効率的にシフト調整ができるようになった。
- 4) サテライト型小規模多機能型居宅介護開設に向けた話し合いを行う。

<今後の展開>

小規模多機能型居宅介護、るびなすの連携を密に行い、在宅サービスの充実を図っていく。また、入居に関しては中重度要介護者・認知症高齢者の受入が基本となる。そのためにも専門性の向上と業務の効率化を図っていきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況

医師1名（非常勤）、看護職員4名、介護職員41名（内派遣7名）、生活相談員1名、管理栄養士1名、介護支援専門員2名、事務職員他2名、合計52名（非常勤9名 派遣7名 育児休業1名）

○2018年度職員異動状況

採用18名【介護職員17名（常勤2名、非常勤9名、派遣6名）・看護職員1名（常勤1名）】

退職10名【介護職員 9名（非常勤3名、派遣6名）・看護職員1名（嘱託1名）】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：11回、延235名参加

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、学習療法、看取りケア、他施設見学、等 外部講師2回依頼

○外部研修実施回数：42回、延44名参加

介護初任者研修、実務者、小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修、死生観、安全運転管理者、認知症介護実践者、認知症介護実践リーダー、アンガーマネジメント、学習療法マスター、全国老人福祉施設研究会議、リフトリーダー養成、介護リーダー、食品衛生講習会、急変時対応セミナー その他

○2019年度も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会を作っていく。特に、内部研修ではグループ等の協力を得て外部講師を多く依頼しての研修を実施していきたい。

2018年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10, 430 人</u>	<u>10, 358 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>28.3 人</u>
入所待機者	<u>58 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 4.35</u>	
協力医療機関 :	<u>1. 広川内科クリニック</u> <u>2. 白石中央病院</u> <u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10, 404 人</u>	<u>10, 348 人</u>
※延通い利用者数		<u>4, 623 人</u>
※延宿泊数		<u>1, 204 人</u>
※延訪問数		<u>3, 996 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.5 人</u>	<u>28.4 人</u>
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 2.06</u>	

【通所介護：認知症対応型 3 名】

目 標

実 績

延利用者数 196 人 22 人

一日平均利用者数 0.5 人 0.1 人

要介護度状況 : 平均要介護度 4.0

2018年度 事業報告

施設名：カームヒル西円山

1. 総括

特定入居者生活介護登録者は、アベレージ42.8名で目標の43名にはわずかに届きませんでした。平均介護度は、1.0、一日平均入所者数は、98.3人（目標100名）で、経常利益は、予算を下回る結果となりました。

介護職員は、通年を通して退職者なく、職員は安定して推移しました。

入居者様に関しては、感染の発生もなく過ごすことが出来ましたが、開設23年目を迎える、全体的な状態の悪化があり、入退院も常に数名出ている状況があります。一般・特定の両方の入居者様の状態安定が、入居者数維持に向けて重要となります。

地域活動では、町内会の行事に敬樹園ブロックとして参加し、地域貢献が出来て来ています。今後も地域との共生関係が根づくよう関係づくりを行っていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○「役職者会議」月1回開催

・参加メンバー：施設長、経営管理課長、介護課長、相談主任、介護主任、介護副主任、経営管理主任

・内容：一般・特定の在籍数や月ごとの経費執行状況について報告・協議。その後の職員会議でも実績報告を行う。

○「事例検討会議」必要時に開催し、入居者様の対応方法について検討。

<成果>

・役職者会議、職員会議を通して経営状況を全職員で意識しながら運営ができました。

・事例検討会議にて早期対応が可能となり、状態の安定化に向けたり、住替え等の対応が迅速にできました。

<今後の展開>

・職員の配置状況は安定していますが、退職者が出れば介護職員の新規採用は困難な状況から、介護報酬の請求が制限される事態になってしまふ為、人材確保を念頭におきながら経営改善に取り組んでいきます。

・2019年度は、施設設備としてレストランの椅子の購入を予定しています。また、設備の永年劣化等による修繕が必要と予想されますので、安全面を重視しながらの修繕等を行っていきます。

・入居者様については、一般の方の個別援助計画の立案を行い、ケアハウスでの生活が長く安定して続けられるよう支援します。

・ケアハウス内でできる活動に対してボランティアを募り、役割づくりや生きがいづくりに繋げられるよう支援を行っていきたいと思います。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

看護職員：2名、介護職員：13名、相談員：2名、事務職員他：2名、合計：19名

○2018年度職員採用・退職等状況

退職⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：0名

採用⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：0名

異動⇒看護職員：0名、介護職員：1名、相談員：0名

4. 研修参加・実施状況

○参加：14回 参加者：延べ47名

外部研修：老人福祉施設協議会・全国軽費老人ホーム協議会・北海道社会福祉協議会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会等

2018年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数 (うち特定入居者)	<u>36,500</u> 人	<u>35,903</u> 人 <u>15,628</u> 人
一日平均入所者数 (うち特定入居者)	<u>100</u> 人	<u>98.3</u> 人 <u>42.8</u> 人
入所待機者（3月末現在）個人： <u>71</u> 人 夫婦： <u>14</u> 人 うち特定： <u>9</u> 人 (要支援1・2を含む)		
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.0</u> (要支援1・2を含む)	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	

2018年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石・白石の郷

1. 総括

2018年度は1年間を通して「在宅強化型」を維持することができました。老人保健施設は過去最多の延72名の入所者を在宅に送り出すことができ、老人保健施設としての基本的な役割を果たすことができました。しかし、2018年度もベッド稼働率は予算を達成することができませんでした。待機者の管理や、入院による空きベッドの早期解消などの課題を解決する具体的な方策を見出すことが白石の安定経営のためには不可欠であり、2019年度への持ち越しとなりました。

また、2019年度は「超強化型」にチャレンジすることを目標に掲げました。このチャレンジは経営改善の意味合いだけでなく、白石で働く全職種のモチベーション向上につながる目標だと考えています。

内部プロセスの面では、人財の育成と業務改善に取り組みました。各委員会活動を活性化させることや、全国大会をはじめとする外部研修会への参加、コミ白内部での研究発表会の開催など、多くの職員が参加し自己研鑽に努めました。

また、ワインケアの活用やタブレット導入による記録方式の変更、多職種がリアルタイムで情報を共有するための共有フォルダの活用など、サービスの質向上と業務の効率化を目的とした改善を実施しました。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

開催日：毎月1回、第3月曜日に定例開催。

参加者：施設長、経営管理部長、施設ケア部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、支援相談課長、施設管理課長の7名。

内容：利用状況（老健入所、通所）の確認、在宅強化型要件の現況確認（在宅復帰率、ベッド回転率、他）、新規加算の算定に向けた検討、BSCアクションプラン実施に向けた検討、その他運営上の課題について協議。

<成果>

- 老人保健施設は、2018年4月から1年間を通して「在宅強化型」を維持することができた。
- 新規加算として、老人保健施設入所は排泄支援加算、再入所時栄養連携加算等を算定した。通所リハビリテーションは、中重度加算、リハマネIII加算を算定した。
- BSCアクションプランについては経営改善プロジェクト会議でスケジュール管理を実施し、運営会議や各委員会と連携して進捗状況を共有することができた。
- コミ白開設30周年に向けて、経営改善プロジェクト会議が記念祝賀会やイベントの企画立案を担う会議体としての位置づけを明確にした。

<今後の展開>

2019年度は、「介護のしごと魅力アップ推進事業」のイベント開催を活用して、白石地域の「つながり」を生むような取組みを行いたいと考えています。併せて、白石ブロックが安定した経営を持続するためには、サービスの構成がどうあるべきかを再検討したいと思います。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況

医師1名、看護職員19名、介護職員90名、相談職員34名、介護支援専門員8名、療法士16名、管理栄養士1名、事務職員他20名、非常勤ヘルパー14名 合計203名 ※産休・育児休業4名、休職1名、育児短時間勤務2名

○2018年度職員異動状況

採用：31名（看護職員 3名、介護職員 18名、相談職員 6名、事務職員他 4名）

退職：27名（看護職員 2名、介護職員 22名、相談職員 2名、事務職員他 1名）

転入：2名（療法士 2名）

転出：3名（療法士 2名、事務職員 1名）

4. 研修参加・実施状況

○渓仁会グループ本部主催研修会：延30名参加 ○渓仁会グループ研究発表会：6演題発表、46名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延38名参加

○北海道老人保健施設大会：2演題発表、10名参加 ○全国老人保健施設大会：1演題発表、2名参加

○外部研修：「認知症実践者及びリーダー研修」5名参加、「北海道抑制廃止研究会」1名参加、「高齢者虐待防止研修会」8名参加、「社会福祉施設等防火・救命実務研修会」3名参加、「感染管理ベストプラクティス研修」3名参加、「北海道理学療法士学会」2名参加、「北海道地域包括ケアセミナー」4名参加、他、多数の研修会に参加した。（合計延208名が参加）

○内部研修（全体研修）：「防災研修会」48名参加、「安全運転講習会」45名参加、「感染予防研修会」42名参加、「KYT研修会」2回開催し53名参加、「食中毒予防研修会」80名参加、「抑制廃止研修会」2回開催し55名が参加、「利用者からのハラスマント対応研修会」2回開催し76名参加、各部署による「事例発表会」を開催し14題の研究発表があり多数の職員が参加、他

○その他、部署毎に研修計画を作成し部内研修会及び伝達講習会を多数実施した。

2018年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>34, 675</u> 人	<u>34, 195</u> 人
一日平均入所者数	<u>95.0</u> 人	<u>93.7</u> 人
入所待機者	<u>10</u> 人 (3月末現在)	
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 2.8</u> (短期療養除く)	
協力医療機関 :	<u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. 白石中央病院</u>	
	<u>3. 札幌ひばりが丘病院</u>	
	<u>4. 東札幌病院</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10, 181</u> 人	<u>9, 209</u> 人
一日平均利用者数	<u>41.5</u> 人	<u>38.1</u> 人
要介護度状況 :	<u>平均要介護度 2.1</u> (要支援1・2を除く)	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6, 019</u> 人	<u>6, 017</u> 人

一日平均入所者数 _____ 16.5人 _____ 16.5人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.4 (要支援1・2を除く)

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険) _____	7,797回	6,862回
(介護保険外) _____		1,373回

一日平均利用回数 (介護保険) 25.3回 22.2回

要介護度状況 : 平均要介護度 1.7 (要支援1・2を除く)

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険) _____	1,496回	2,059回
(介護保険外) _____		0回

一日平均利用回数 (介護保険) 6.2回 8.5回

要介護度状況 : 平均要介護度 3.4 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 _____	2,280件	2,187件
(うち介護予防) _____		104件

要介護度状況 : 平均要介護度 1.7 (要支援1・2を除く)

【第1地域包括支援センター】

延相談件数 774 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：612 件 権利擁護：8 件 高齢者虐待：5 件

介護予防：5 件 その他の保健福祉サービス：8 件

認知症に関すること：22 件 消費者被害に関すること：1 件

住まいに関すること：30 件 心身の健康に関すること：13 件

家族の疾病・障がいに関すること：4 件 その他：87 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>12</u> 回	<u>0</u> 回
個別地域ケア会議の準備会	<u>12</u> 回	<u>0</u> 回
地区地域ケア会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
地区連絡会議	<u>15</u> 回	<u>0</u> 回
区地域ケア推進会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
区連絡会議	<u>0</u> 回	<u>12</u> 回
その他のケース検討会議	<u>1</u> 回	<u>9</u> 回
運営推進会議等	<u>0</u> 回	<u>91</u> 回
地区組織との連携	<u>5</u> 回	<u>21</u> 回
医療機関との連携	<u>12</u> 回	<u>0</u> 回
その他関係機関との連携	<u>72</u> 回	<u>80</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>569</u> 件	<u>491</u> 件	<u>176</u> 件

【第3地域包括支援センター】

延相談件数 771 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：590 件 介護予防：5 件 権利擁護：5 件

その他の保健福祉サービス：23 件 消費者被害に関すること：7 件

認知症に関すること：80 件 住まいに関すること：59 件

心身の健康に関すること：34 件 高齢者の虐待に関すること：5 件

家族の疾病・障がいに関すること：9 件 その他：92 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	21回	0回
個別地域ケア会議の準備会	3回	0回
地区地域ケア会議	5回	0回
地区連絡会議	8回	0回
区地域ケア推進会議	3回	0回
区連絡会議	13回	0回
その他のケース検討会議	9回	2回
運営推進会議等	0回	50回
地区組織との連携	12回	91回
医療機関との連携	0回	0回
介護支援専門員連絡協議会		11回
生活支援コーディネーターとの連携		9回
その他関係機関との連携	118回	67回

予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	585件	872件	291件

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 46 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：23 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
 介護予防：28 件 その他：4 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか俱乐部	49回	715人
介護予防教室	34回	371人
転倒予防教室	0回	0人
認知症予防教室	0回	0人
研修会・講演会	1回	82人
その他	6回	189人

2018年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

目 標

実 績

延入所者数 6, 461 人 6, 229 人

一日平均入所者数 17. 7 人 17. 0 人

入所待機者 30 人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 2. 2

協力医療機関 : 1. よつばクリニック

2. 札幌歯科口腔外科クリニック

3. 北郷皮膚科

【通所介護：一般型45名】

目 標

実 績

延利用者数 12, 326 人 11, 377 人

一日平均利用者数 40. 0 人 37. 0 人

要介護度状況 : 平均要介護度 1. 9 (要支援1・2を除く)

2018年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 入所（短期含む）は在宅復帰率を含む様々な指標によって報酬区分が細分化されたが、幸いにもこれまで行っていた取組が功を奏し超強化型でスタートできた。以降も指標を意識した運営によって年間を通じ超強化型の指標を維持し、なおかつショートステイなどで空床を補うことで年間の稼働を88.1床／日まで高められた。
- 通所リハは、停電による営業中止や冬季の落ち込みもあったが、延利用者が前年比で155人増となり目標値32.5人／日を上回る32.7人／日で終えることができた。
- 訪問リハは、他事業（入所・通所）に掛かるリハビリ体制強化のために余力の中での運営となり、9.0人／日と設定した目標値に対し7.5人／日と達成には至らなかった。
- 訪問介護は、町内の居宅介護支援事業所からの依頼も増えており着実に実績が積まれてきている。施設から在宅復帰した後のサポートもコンスタントに依頼があり、利用人数については目標8.0回／日を超える8.8（制度外を含め9.4）回／日を実現できた。
- 居宅支援は、前年が好調であり目標値を高く見直して設定したため今年度は達成に至らなかったものの、例年と比べると好調で終えることができた。
- 在宅復帰に取り組み3年が経過し、可能な限り在宅復帰を目指す施設の基本的な姿勢が、徐々に住民にも浸透してきていると感じる。同様に町内医療機関や居宅介護支援事業所にも広がり、在宅復帰を前提としてリハビリを必要とする利用者の紹介、冬季間や家業の繁忙期の都合で入所と在宅生活を繰り返す方、また在宅介護を行う家族のレスパイト目的によるショートステイ利用などが増えており、老健として求められる役割を少しずつ実現している。
- 入所部門と在宅部門が互いに利用者の生活をサポートすることで、一体感のあるサービス提供へと繋がり、経営的な面でも大きな相乗効果をもたらしている。しかしながら、業務においても様々な労力が必要となり、不足がちな職員にさらなる負担がのしかかっている。
- 人事面においては、看護師・介護員について退職後の補充が進まなく、慢性的に人手不足が続いていること、有給休暇を思うように取得できない状態となっている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 前年に土曜営業中止の影響もあって落ち込んだ利用者を、再度復調するため通所プロジェクトを早期に始動。他施設の見学や他職種による検討会議を重ね、利用者が楽しめる時間づくりに取り組んだ。
- 2018年4月に開設20周年を迎えた記念祝賀会や記念誌製作を実施。また記念品を町内企業とコラボレーションして作成し、職員や関係機関のみならず、広く町民へも還元することで施設のPRにも繋がった。
- 実習生は療法士養成学校から5名の受入を行った。また、八雲高校の一日看護体験、インターナーシップ、八雲・落部・野田生中学校からの職業体験学習で多くの生徒を受入れた。
- 地産地消の取り組みとして、牛乳・ホタテ・野菜など八雲産の食材を定期的に利用。また、町内就労支援施設が製造しているパンも複数回給食に利用した。
- 職員親睦レク活動として、親交会総会・懇親会、夏祭り反省会、忘年会を開催、その他、ピアガーデン・町民バレー大会等に参加し職員間の親睦交流を図った。
- 2019年3月に手稲渓仁会病院と共同でがんイベントを主催し町内外より24名の参加あり、地域住民への貢献とPRが出来た。
- 介護ロボット導入支援助成金を活用し、見守りセンサー機器を導入した。
- これまで取り組んできた在宅復帰プロジェクトの中で、昨今必要性が高まっているターミナルケアについても検討事案とし、今年度5件の看取りケアを提供した。

<今後の展開>

- 在宅復帰指標を意識しながら戦略的なベッドコントロールを行う。また空床ロスを低減させるため、町外近隣地域の病院やケアマネとも連携を深め入所待機者の確保に努める。
- 1~2月にインフルエンザ集団感染が発生しており、これまで操り返し起きていることから、感染マニュアルの整備や研修などにより対応力強化を図る。
- 風水害・停電など災害に対する対応力を強化すべく、設備や備蓄品およびマニュアルの整備に努める。
- 苦情は7件と前年同様に多く、主に職員の対応に原因があることから、接遇について年間を通して取り組んで行く。
- 現在の人材や資源の中で、実施および継続可能な地域貢献活動を検討し運営に取り組む。
- キャリアアップ助成や人材紹介制度等を活用およびPRし職員確保に繋げる。また、引き続き業務負担が軽減されるような有効な介護機器や設備等を導入して行きたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況

医師：1名、看護職員14名（内非常勤3名）、介護職員（介護助手含む）53名（内非常勤14名）、療法士8名（内非常勤2名）

管理栄養士2名、介護支援専門員6名、相談職員4名、事務職員他10名（内非常勤6名） 合計98名（常勤73名、非常勤25名）

○2018年度職員異動状況

採用：18名（看護職員4名、介護職員10名、介護助手2名、療法士1名、事務職員1名）

退職：17名（看護職員3名、介護職員9名、療法士2名、事務職員3名）

○離職は、自己都合退職14名、期間満了3名で、離職率は13.4%

4. 研修参加・実施状況

○内部研修：接遇マナー研修、転倒転落アセメント研修、身体拘束研修、手指衛生研修等 合計10回延345名参加

○外部研修（法人内）：新任役職者研修、中堅管理職講座、リハビリ合同研修会、介護技術研修会等 合計27回延99名参加

○外部研修（法人外）：ケアアセスメント研修、虐待防止推進研修、口腔ケア・口腔リハビリ研修等 合計18回延26名参加

2018年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	31, 938 人	32, 150 人
一日平均入所者数	87.5 人	88.1 人
入所待機者	3 人 (3月末現在)	
要介護度状況 :	平均要介護度 3.2 (短期療養除く)	
協力医療機関 :	1. 八雲総合病院	
	2. ヤクモ歯科クリニック	
	3.	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	8, 353 人	8, 401 人
一日平均利用者数	32.5 人	32.7 人
要介護度状況 :	平均要介護度 2.0 (要支援1・2を除く)	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	2, 196 人	1, 826 人
一日平均利用者数	9. 0 人	7. 5 人
要介護度状況 :	平均要介護度 2. 4	(要支援1・2を除く)

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	2, 472 回	2, 716 回
(介護保険外)		164 回
一日平均利用回数 (介護保険)	8. 0 回	8. 8 回
要介護度状況 :	平均要介護度 2. 2	(要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	1, 200 件	1, 115 件
(うち介護予防)		205 件
要介護度状況 :	平均要介護度 1. 9	(要支援1・2を除く)

2018年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

- ・2018年度入所（短期療養含む）の1日平均入所者数は、78.6人にて僅かながら目標値に届かず（-0.4）。
内訳 入所者：在宅17人、施設2人、病院29人、合計48人（平均介護度 2.7）
退所者：在宅 6人、施設10人、入院30人、死亡 5人（内看取り5人）、合計51人
- ・通所リハビリの1日平均利用者数 52.4人 目標値を0.4人上回った。
- ・通所介護の1日平均利用者数 20.3人 目標値に0.3人上回った。
- ・訪問介護の1日平均利用回数 53.0人 目標値に3.0人上回った。
- ・施設内の感染対策では、ドライミストによる湿度管理及び次亜塩素酸による全トイレ回り1日2回の消毒と施設内消毒を継続して実施した結果、ノロウィルス及びインフルエンザともに罹患者はゼロであった。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・年度当初に目標を設定し、進捗状況を確認しながら、毎月開催の施設運営会議において実施状況の成果を報告、確認し、解決が必要な課題について検討することで、早期解決に努めたところである。

<成果>

- ・美唄ブロック全体にて、本計画の目標を達成するために実績を積み上げ、経常利益において予算に対して127万円を超える利益を計上する結果となり、概ね予算とおり執行することができたと評価している。

<今後>

- ・継続して、利用者様に信頼されるよう質の高いサービスが提供できる体制を確保するための業務改善に取り組む。
- ・各事業が相互作用するような仕組みづくりを行うことで、施設経営が継続して行えるように努める。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況

(CH美唄)

医 師	1名	看 護 職 員	13名（内非常勤3名、准看護師含む）
介 護 職 員	51名（内非常勤 13名）	栄 養 士	1名
相 談 員	4名（内非常勤 1名）	事務・施設管理	5名
療 法 士	7名	清 掃 ・ 運 転	11名（全て非常勤）
合 計	95名（内非常勤28名）		

(すまいる)

介護支援専門員	5名	訪 問 介 護 員	26名
看 護 職 員	2名	介 護 職 員	5名
事務職員等	8名	合 計	49名

○2018年度職員異動状況

(CH美唄)看 護 職 員⇒採用1名、退職1名	療 法 士⇒採用1名、退職0名
事務・施設管理職員⇒採用1名、退職0名	介 護 職 員⇒採用6名、退職6名
相 談 員⇒採用1名、異動1名	
(すまいる)介 護 職 員⇒採用0名、退職1名	

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

(CH美唄)

- ・実施回数：26回、延44名参加。人材育成の為、積極的に研修受講を促した。
- ・主な研修名称：溪仁会グループ研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士会研修会、道社協主催研修会、美唄市主催研修会他、施設内研修も随時実施しており、日常業務の研鑽に取り組んだ。

(すまいる)

- ・その他の集合研修：延 11名（通所 2名、居宅 7名、経管 1名、訪介 1名）
- ・職員対象の内部研修：延345名（通所 29名、居宅 25名、経管 4名、訪介 287名）
- ・訪問介護事業所内研修：1回/月
- ・通所介護事業所内研修：1回/2ヶ月
- ・居宅介護支援事業所内研修：1回/2ヶ月

○2019年度も、3事業所の合同研修会を継続し、研修の更なる充実を図っていきたい。

2018度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	28, 835 人	28, 706 人
一日平均入所者数	79.0 人	78.6 人
入所待機者	12 人 (3月末現在)	
要介護度状況 :	平均要介護度 2.7 (短期療養除く)	
協力医療機関 :	1. 市立美唄病院 2. 宝崎歯科分院	

【通所リハビリテーション：定員65名】

	目 標	実 績
延利用者数	12, 740 人	12, 940 人
一日平均利用者数	52.0 人	52.4 人
要介護度状況 :	平均要介護度 2.3 (要支援1・2を除く)	

2018年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センター すまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	5, 120 人	5, 125 人
一日平均利用者数	20.0 人	20.3 人
要介護度状況 :	平均要介護度 1.6	(総合事業を除く)

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	15, 400 人	16, 268 人
(介護保険外)		4, 813 人
一日平均利用回数 (介護保険)	50.0 人	53.0 人
要介護度状況 :	平均要介護度 1.9	(総合事業を除く)

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	2, 235 件	2, 423 件
(うち介護予防)		533 件
要介護度状況 :	平均要介護度 2.0	(総合事業を除く)

【福祉入浴】(自主事業)

延利用者数	2, 303 人
一日平均利用者数	15.0 人

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 (L S A)】(受託事業)

対応件数	4, 102 件
(安否確認 : 3, 753 件)	相談連絡 : 305 件 健康異変 : 19 件
ガス漏れ警報器 : 3 件	非常呼出 : 22 件 その他 : 0 件)

2018年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

2018年度介護報酬改定により「在宅復帰・在宅支援機能」がこれまで以上に重視され、改めて中間施設としての役割を果たしていく事が急務となり、その事が施設の経営にも直結するようになった。そのため12月より「在宅復帰・在宅支援機能の強化に向けてのプロジェクト会議」を発足して、在宅復帰と在宅支援機能の役割を強化していくことを喫緊の課題として取り組んできた。

1. 入所については、一日平均入所者数99.8名で、平均入所者数100名の目標をほぼ達成できた。平日の入所調整に関して迅速に対応できることは大きい。今後は週末等の入所対応やインフルエンザ等の感染症蔓延防止対策が課題といえる。また、入所者のADL状況等を鑑みて、岩内ふれ愛の郷（特養）に入所案内等を実施し継続して連携を図ることを今後も継続していきたい。
2. 通所リハビリテーションに関しては、「大規模型事業所Ⅰ」としての月平均利用者延べ人数、そして年間目標の数字はほぼ達成できた。課題であった加算算定については、今後も「通所リハマネ加算（Ⅱ～Ⅳ以上）」を積極的に取得できるよう取り組んでいきたい。
3. 訪問看護は、介護保険・医療保険共に派遣回数・一日平均利用者数に関しても目標達成する事ができた。今後の課題としては、訪問リハビリの要望が多くあるためセラピストの配置等が課題である。
4. 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターは、延利用数の目標を達成する事ができた。また、地域包括支援センター主催の介護予防の「はつらつ元気塾」や「ぱぴっと健康クラブ」等の地域活動も積極的に取り組む事ができた。
5. 事業所内保育所を利用する職員は減少傾向にあるが、子育て中の女性職員を中心に働きやすい環境が提供できている。また、利用満足度の向上の取り組みとして懇談会の開催等を行っている。
6. 岩内町以外の近隣市町村にも職員送迎を実施し、地域での人材確保に努めており、利用者も増えている。
7. 酒井施設長を中心とした診療体制がより充実している。特定疾患療養費加算やターミナル加算も算定する事ができている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○「コミュニティホーム岩内」「岩内ふれ愛の郷」各役職者が経営改善に向けて「岩内コミュニティの丘運営会議」を月1回開催し、施設経営等に関する積極的な議論が展開されている。また、「在宅復帰・在宅支援機能」強化に向けて「在宅復帰・在宅支援機能の強化に向けてのプロジェクト会議」を月1回開催し、今後、在宅強化型もしくは超強化型に移行できるよう役職者を中心に議論できている。

<成 果>

○「岩内コミュニティの丘運営会議」で情報共有することで透明性の保持や可視化ができる事となった。また、「在宅復帰・在宅支援機能の強化に向けてのプロジェクト会議」にて在宅復帰阻害要因等の検証を行い2019年度4月からは「基本型」から「加算型」へ移行することができた。

<今後の展開>

○「コミュニティホーム岩内」「岩内ふれ愛の郷」2つの施設が連帯感を持った一体経営に向けて、積極的な人事異動等を実施し、情報の共有化を図っていきたい。委員会体制等も一体的に運営を行うことで岩内の組織体制をより堅持できている。特にコミュニティホーム岩内は老健施設としての役割を十分に果たして、地域に貢献する活動を継続し、運営の充実を図っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況 *有資格者の定数配置はできている。

・医 師	1名	(正職員 0名)	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 1名)
・理学療法士	9名	(正職員 9名)	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名)
・作業療法士	2名	(正職員 2名)	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名)
・管理栄養士	1名	(正職員 1名)	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名)
・栄 養 士	1名	(正職員 1名)	契約職員 0名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名)
・看 護 職 員	22名	(正職員 12名)	契約職員 1名	非常勤職員 9名	嘱託職員 0名)
・介 護 職 員	84名	(正職員 19名)	契約職員 28名	非常勤職員 37名	嘱託職員 0名)
・相 談 職 員	10名	(正職員 9名)	契約職員 1名	非常勤職員 0名	嘱託職員 0名)
・事 務 職 員	10名	(正職員 5名)	契約職員 1名	非常勤職員 4名	嘱託職員 0名)
・運 転 職 員	8名	(正職員 0名)	契約職員 0名	非常勤職員 8名	嘱託職員 0名)
・合 計	148名	(正職員 58名)	契約職員 31名	非常勤職員 58名	嘱託職員 1名)

4. 研修参加・実施状況

・新入職員研修3名	・介護技術研修11名	・北海道老人保健施設大会4名
・新人フォローアップ研修4名	・渓仁会リハビリテーション研修会10名	・社福リハビリ合同研修会11名
・中堅管理講座研修1名	・渓仁会グループ研究発表会12名	・喀痰吸引指導者研修2名
・医療的ケア研修7名	・ケア課施設内研修(延5回) 88名	○その他38回研修開催・参加している。

2018年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名】

	目 標	実 績
延入所者数	36, 500 人	36, 424 人
一日平均入所者数	100. 0 人	99. 8 人
入所待機者	9 人 (3月末現在)	
要介護度状況 :	平均要介護度 2. 98	
協力医療機関 :	1. 岩内協会病院	
	2. 済生会小樽病院	
	3. 中村歯科医院	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	10, 752 人	10, 737 人
一日平均利用者数	41. 0 人	40. 9 人
要介護度状況 :	平均要介護度 1. 38 (要支援1・2を含む)	

【地域包括支援センター】

延相談件数 201件

相談内容（重複有）

介護保険制度 :	<u>116件</u>	代行申請 :	<u>23件</u>
認知症 :	<u>12件</u>	生活支援 :	<u>3件</u>
権利擁護 :	<u>1件</u>	高齢者虐待 :	<u>2件</u>
介護予防・リハビリ :	<u>2件</u>	入所 :	<u>2件</u>
その他 :	<u>41件</u>		

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>0回</u>	<u>12回</u>
居宅・包括連絡会議	<u>3回</u>	<u>3回</u>
役場・包括連絡会議	<u>12回</u>	<u>12回</u>
地域ケア会議	<u>6回</u>	<u>6回</u>
虐待対応会議	<u>0回</u>	<u>2回</u>
センターカンファレンス	<u>12回</u>	<u>12回</u>
地区組織関係会議	<u>0回</u>	<u>26回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	委託プラン
要支援（予防給付）	<u>38件</u>	<u>883件</u>	<u>0件</u>
予防ケアマネジメント（総合事業）			
入手数		直営プラン	委託プラン
	<u>24件</u>	<u>876件</u>	<u>0件</u>

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (うち介護保険外)	<u>4, 148 回</u> <u>648 回</u>	<u>4, 615 回</u> <u>639 回</u>
一日平均利用者数	<u>17.0 人</u>	<u>18.9 人</u>
要介護度状況 :	平均要介護度 <u>1.44</u>	(要支援1・2を含む)

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 (うち介護予防)	<u>400 件</u>	<u>401 件</u> <u>0 件</u>
要介護度状況 :	平均要介護度 <u>1.80</u>	(要支援1・2を除く)

2018年度 事業報告

施設名：青葉ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

1年間を通して目標に近い数値を残すことはできず、非常に厳しい数値結果となった。仙機閣との連携等構築していく、新規利用者の獲得、既存利用者の確保、個別機能訓練加算IIの算定率を増やしていくことが、経営改善に必要とされる要因となる。また経営状況に合わせて適正な人員配置の検討も必要とされる。

<居宅介護支援>

職員に変動はなかったが目標達成には至らず、1年間を通して非常に厳しい結果となった。今後も新規利用者の獲得、既存利用者を確保し、設定した目標値を達成できるよう努めていくことが必要となる。

<訪問看護>

目標値に近い数値を残すことができたが、年度末の職員退職に伴い新規利用者の獲得に支障をきたし、目標達成にまでは至らなかった。今後においても職員体制を整え、既存利用者の確保、新規利用者の獲得をおこなっていく。

<小規模多機能>

1年間を通して職員の入職・離職が多かったことから、職員体制の確保が難しく、加算の未算定にも大きく響いた状態にあった。今後は職員の離職率を減少させ、加算を算定していくことが経営改善の重要な課題となる。

<今後の展開>

2019年度においても、介護・障害の報酬改定に伴い厳しい状況になると予想されるが、加算算定率の維持、新規利用者の確保に努めていくことが重要とされる。また、各関係機関との連携の構築していくことが利用者獲得の最優先条件となるため、関係構築に努めていく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○運営会議（毎月1回）：4施設全体の経営改善における検討をおこなった。参加者：センター長、役職者（居宅、通所、小規模、訪問看護、経理）

○各部署会議（居宅・通所・小規模、訪問看護）（毎月1回）：各事業所での経営改善における検討をおこなった。参加者：センター長、役職者（居宅・通所・小規模、訪問看護）

○通所主務者会議（毎月1回）：業務の効率化、経営改善における検討をおこなった。参加者：センター長、役職者、リーダー・サブリーダー、看護職

○居宅会議（毎週1回）：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施。参加者：介護支援専門員全職員

<成果>

○各事業所間での情報共有をおこなうことにより、経営上必要な課題点が明確になってきた。

○情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者にたいしての早期対応、また業務の効率化をはかっていくことができた。

<今後の展開>

○新規利用者の獲得、既存利用者の確保、コスト意識をおこないながら、少ない費用で収益を確保できるよう努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況

・生 活 相 談 員： 2名（常勤職員 2名）※管理者兼務1名	・介 護 支 援 専 門 員： 8名（常勤職員 7名、非常勤職員 1名）※管理者兼務1名
・看 護 職 員： 9名（常勤職員 5名、非常勤職員 4名）	・理 学 療 法 士： 3名（常勤職員 3名）
・介 護 職 員： 22名（常勤職員 14名、非常勤職員 8名）	・事 務 職 員： 1名（常勤職員 1名）
・運 転 職 員： 4名（常勤職員 1名、非常勤職員 3名）	・合 計： 49名（常勤職員 33名、非常勤職員 16名）

○2018年度 入職・退職者状況（出向者含む）

採用：7名　・理学療法士：1名（異動）、管理者兼生活相談員：1名（異動）、生活相談員：1名（異動）、介護職員：4名（内1名異動）

退職：9名　・理学療法士：1名（異動）、管理者兼生活相談員：1名（異動）、生活相談員：1名（異動）、介護職員：4名、看護職員：2名

4. 研修参加・実施状況

○外部研修 参加回数20回 延参加者24名

スーパービジョンってなんだろう、厚別居宅支援事業所合同事例検討会、北海道高齢者虐待防止推進研修会、札幌市介護支援専門員連絡協議会全体研修会、渓仁会相談職合同研修、北海道在宅医療推進フォーラム、介護支援専門員更新研修、中堅接觸者研修会C、経年別研修会、札幌市厚別区ケアマネジメント能力向上研修、

札幌市介護支援専門員連絡協議会厚別区支部定例研修会、介護支援専門員の為の居宅介護支援運営基準の理解、ふまねっとサポートー研修会、精神疾患について学ぼう、

高齢者の虐待防止について、おむつはずし学会in浦河「生活を支えるために今できることを始めよう」

2018札幌医師会の取り組み、BCP作成実務研修、小規模多機能型サービス計画作成者研修

○内部研修 9回 延参加者40名

あおばハーティケアセンター 地域と共にずっと、虐待が合った場合の通報、連絡の確認、ケアプラン作成の方法、言葉使いについて考える、虐待について考える、
事例検討会、地域公開講座在宅を支える医療とは

2018年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型 50名】（30年2月～50名）

目 標

実 績

延利用者数（一般型） 12, 320 人 10, 990 人

一日平均利用者数（一般型） 50 人 35.1 人

要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 1.7 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

目 標

実 績

延作成件数 1, 956 件 1, 620 件

(うち介護予防) 206 件

要介護度状況 : 1.1 (要支援1・2を除く)

【訪問看護】

目 標

実 績

延派遣回数 4, 438 回 4, 262 回

(うち介護保険外) 614 回 991 回

一日平均利用者数 20.7 人 17.0 人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.2 (要支援1・2を除く)

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員 29名（通い定員 18名、宿泊 6名）】

目 標

実 績

延登録者数 10, 216 人 10, 071 人

※延通い利用者数 4, 924 人

※延宿泊数 789 人

※延訪問数 4, 931 人

一日平均登録者数 28.0 人 27.5 人

要介護度状況 : 平均要介護度 1.87 (要支援 1・2 を除く)

2018年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護> 1年間を通して目標に近い数値で推移し、加算においては個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱともに90%以上の算定率を維持できた。人員においては派遣、紹介雇用を控え直接雇用を主体に採用を進めている。人員確保は今後も重要な課題である。

<居宅介護支援> 退職・異動と職員に変動があり、経営状況も1年間通して非常に厳しい結果となった。今後も新規利用者を獲得し、目標を達成できるよう努めていくことが課題となる。

<障害相談支援> 昨年度から、障害児の指定を受け、障害者・児の計画作成相談をおこなっていたが、経営的に非常に厳しい状況にあり、手稻つむぎの杜の「こころていね」と統合し、2018年11月30日付で事業を廃止した。

<今後の展開> 2019年度、通所介護は、より質の高いサービス提供を目指し、職員のスキルアップに注力していく。居宅介護支援は、2019年5月1日付で居宅介護支援事業所西円山敬樹園居宅と統合することによりCM6名体制となり、スケールメリットを活かし安定した経営基盤の構築を図っていく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○毎月1回：通所介護事業所運営会議：業務の効率化、経営改善にむけて検討をおこなった。

参加者：役職者、リーダー職員、看護職員

○毎週1回：居宅介護支援事業所会議：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施。

参加者：介護支援専門員全職員

<成果>

○通所介護事業で抱えていた問題点等を改善することができ、業務の効率化をはかっていくことができた。

○情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者にたいしての早期対応、また、業務の効率化を図っていくことができた。

<今後の展開>

○各部門が責任を持って、経営改善にむけ努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2019年3月31日職員状況

・管 理 者： 2名（通所介護管理者、居宅管理者）

・生 活 相 談 員： 2名

・介護支援専門員： 2名

・看 護 職 員： 4名（内非常勤2名）

・言 語 聽 覚 士： 1名

・作 業 療 法 士： 1名（非常勤）

・介 護 職 員： 22名（内非常勤9名）

・事 務 職 員： 1名

・運 転 職 員： 7名（非常勤）

・清 掃 職 員： 1名（非常勤）

・合 計： 43名（内非常勤20名）

○2018年度 採用・退職者状況（出向者含む）

採用： 9名（介護支援専門員1名、看護職員2名、介護職員3名、運転職員3名）

退職： 10名（管理者1名、介護職員3名、看護職員1名、介護支援専門員2名、相談支援専門員1名、運転職員2名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修：新人職員研修、「こんなデイサービスがあってもいいじゃない」研修、「看取り」研修、防火管理者研修、介護家族支援研修、健康カラオケサポーター養成講座、札幌市ケアマネジメント能力向上研修、中央区ケアマネジメント能力向上研修、コミュニケーション研修、札幌市介護支援専門員連絡協議会 ケアマネ資質向上研修会、安全運転管理者講習会等

○内部研修：中堅管理職研修、業務内容勉強会、職員合同研修会等

2018年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型80名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>20, 030</u> 人	<u>20, 470</u> 人
一日平均利用者数（一般型）	<u>65.2</u> 人	<u>66.6</u> 人
要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 <u>1.9</u> (要支援1・2を除く)		

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 (うち介護予防)	<u>1, 635</u> 件	<u>1, 301</u> 件 <u>144</u> 件
要介護度状況 : 平均要介護度 <u>1.79</u> (要支援1・2を除く)		

【障がい者相談支援】

◇指定相談支援事業（サービス利用計画）

新規登録者	<u>19</u> 名
平均登録者数	<u>27.1</u> 名 (内 障害児 <u>13.8</u> 名)
登録抹消者	<u>34</u> 名

11月30日付 事業廃止

2018年度 事業報告

法人本部

1. 各部・室・課の活動状況

●経営管理部

【財務課】

- ・理事会（4月・6月・7月・10月・1月・3月）、評議員会（6月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・経理内部相互監査の実施（4施設）
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（4月）
- ・経理規程の改正
- ・決算・予算及び各月度速報及び確定財務諸表作成事務
- ・財務諸表等電子開示システム活用による行政等への申請（6月）
- ・各種会議への参加、他
- ・改正社会福祉法に関する会計監査人による会計監査の実施
- ・監事監査の実施（5月・7月・10月・1月・3月）
- ・ビジョン福祉40 夢プロジェクトの開催（4月・7月・10月・12月・2月）

【情報システム課】

- ・I C T ロードマップ（2017年度～2021年度）の則り推進
- ・W i n c a r e を活用した業務効率化の提案
- ・ペーパーレス会議システム導入検討開始
- ・居宅介護支援事業支援ソフト「カイポケ」の導入支援
- ・V I S I T （通所・訪問リハビリテーションデータの質の評価収集システム）の導入支援
- ・W i n c a r e タブレットの有効活用を検討

【購買担当】

- ・電力購入業者の見積り合わせを医療法人と共同で実施
「前年度と同額（8,464千円）の削減額を維持」
- ・固定電話費用削減のため電話回線契約の統一化を開始
「基本料金削減、法人間通話料の無料化」
(法人本部、喜茂別、留寿都、白石、手稲導入済み)

●人事部

- ・人事検討会議の開催（16回開催）
- ・人事評価制度の定着と活用の推進
- ・法人広報による魅力発信
- ・共感からはじまる地域デザイン～『未来へつなぐ福祉フェスタ』の開催支援
- ・キャリア向上のための資格取得支援
- ・障がい者雇用の推進と理解の浸透
- ・外国人留学生の受入支援

【総務担当】【総務課】

- ・総務内部相互監査の実施（6施設）
- ・受託業務の申出・契約・請求等の支援
- ・電源地域補助金の審査依頼・請求等の支援（岩内ふれ愛の郷）
- ・キャリアアップ助成金、人材開発支援助成金の申請等の支援
- ・就業規則、給与規程等の改正
- ・職員の定数管理

【キャリア支援担当】【キャリア支援課】

- ・法人本部主催のテーマ別研修会の開催 (10回 : 参加者 延べ 360名)
 - 介護技術研修会の開催 (4回 : 参加者 延べ 108名)
 - 医療的ケア基礎講座の開催の開催 (5回 : 参加者 延べ 90名)
- ・新入職員研修の開催 (2回 : 参加者 延べ 32名)
- ・新入職員フォローアップ研修の開催 (2回 : 参加者 延べ 22名)
- ・中堅管理職講座の開催 (4回 : 参加者 延べ 56名)
- ・受験対策講座
 - 介護支援専門員受験対策講座の開催 (4回 : 参加者 延べ 27名)
 - 介護福祉士受験対策講座の開催 (5回 : 参加者 延べ 77名)
- ・認知症関係
 - 認知症学習会の開催 (4回 : 参加者 延べ 59名)
 - 認知症サポーター養成講座を渓仁会研究発表会で開催 (1回 : 参加者 延べ 17名)
- ・各施設・事業所の要請に応じた研修会の支援 (5回 : 参加者 延べ 149名)
- ・テレビ会議システムによる研修会・各種講座の支援 (テレビ会議受講者 : 延べ 271名 : 昨年より 60名増加)
- ・研修講師調整支援 : 年間 12件
- ・ストレスチェック実施支援 : 受検者 75.9%、高ストレス者平均 17.5%

●事業推進部**【リハビリ担当】【リハビリ課】**

- ・法人リハ全体会議 (10月)
- ・リハビリ課定例会議 (毎月)
- ・渓仁会グループリハ責任者会議 (毎月)
- ・老健リハ会議 (6・12月)
- ・特養リハ会議 (7・1月)
- ・訪問系リハ会議 (6・1月)
- ・通所介護リハ会議 (8・2月)
- ・S T合同会議 (6・10・2月)
- ・職員の各施設への訪問
 - (八雲 11・3月、美唄毎月、岩内 4・5・8・11・12月、他札幌市内は全施設)
- ・養成校の就職説明会参加 (5校)、養成校への求人、職能団体への募集広告活動実施
- ・社)渓仁会リハ部門合同研修会、懇親会 (11月)
- ・社)渓仁会リハ部門札幌ブロック研究発表会 (3月・計3回)
- ・法人内施設・事業所への講師派遣 (延べ4名)、外部への講師派遣 (延べ14名)
- ・言語聴覚士派遣 (毎月) : 月寒、きもべつ、手稲、菊水、るすつ、美唄、岩内、あおば
- ・作業療法士派遣 (毎週) : 喜茂別町立クリニック
- ・療法士派遣 (生活機能向上連携加算/毎月) : 敬樹園、月寒、手稲、菊水、きもべつ、るすつ (以上特養)
白石の郷、円山、あおば、手稲つむぎ、手稲織彩、敬樹園、月寒 (以上D S)
白石の郷、西円山の丘 (以上G H)
カームヒル西円山
- ・喜茂別町地域支援事業 (毎月)
- ・渓仁会G P人事交流研修・受け入れ : 12名 (11/27~30)、参加1名 (11/27~30)
- ・S T派遣マニュアル改定
- ・研究発表 (渓仁会グループ研究発表会 : 2演題)
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・毎月の現況報告によるリハビリ課の情報収集
- ・介護報酬のリハ関連加算取得の推進
- ・訪問リハ事業の拡大
- ・実習受入施設の拡大
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、地域ケア個別会議、地域ケア推進会議等 59件
- ・施設間の異動や人員の調整

【業務管理担当】【業務管理課】

- ・小規模多機能型居宅介護の開設支援
- ・中央区居宅介護支援事業所の統廃合の支援
- ・監督官庁実地指導（監査）立会い（15事業所：介護予防含む）
- ・内部実地指導実施（18事業所：指摘事項66件、推奨事項10件）
- ・事業所事故報告確認（監督官庁報告222件）
- ・KMS推進支援（KMS会議）
- ・相談援助職支援（医療福祉介護連携会議）
- ・各事業・職種会議の企画支援
- ・各施設への業務支援
- ・コンプライアンス研修の開催
- ・リスクマネジメント研修の開催
- ・虐待防止研修の開催
- ・苦情対応に関する支援（第三者委員含む）
- ・法令遵守に関する支援
- ・災害時対応訓練の支援
- ・植樹会の開催

【地域支援事業担当】【地域支援事業推進課】

- ・4町村（喜茂別町、積丹町、ニセコ町、島牧村）遠隔健康支援事業
- ・喜茂別町民の生活改善支援事業
- ・喜茂別町民元気かるて管理事業
- ・喜茂別町生活支援体制整備事業
- ・北海道ヘルスケア産業振興協議会事業協力
- ・留寿都高校農業福祉コース講師派遣
- ・るすつ銀河の杜看護業務支援
- ・喜茂別町との定例情報交換会議
- ・厚別区青葉地区における地域活動支援（地域フォーラム開催）
- ・地域における公益的な取組に関する情報収集と共有化

【栄養管理担当】

- ・栄養管理者会議の開催（5月・7月）
 - 情報の交換（各施設の食事サービスに関する報告、各施設の運営目標の評価報告、意見交換等）
 - 介護報酬の栄養関連加算取得の推進
 - 胆振東部地震時の対応と今後の備蓄食品の管理について
- ・各事業所からの月報・取りまとめ
- ・喜茂別町栄養講話講師派遣（5月・7月・9月・12月・2月）
- ・勉強会の開催
 - 5月：褥瘡の栄養管理（疾患別）
 - 10月：ニュークックチルシステムについて
- ・渓仁会グループ栄養管理者会議の開催（10月）
- ・給食委託業務の検証
 - 省力化に向けての調理システムのリサーチ（再加熱調理システム（ニューカックチル）の病院見学、セミナー参加）
 - 給食委託業者変更による検討会
- ・手稻つむぎの杜の栄養・食事サービス業務の遂行